

本太中だより

第8号

さいたま市立本太中学校

048(886)4305

<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>

E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

令和6年12月2日

幸せな人生

3年生との面談から考えたこと

校長 田中 一秀

冷気が身に染みる季節となりました。考えてみると、長かった夏から一気に冬といった感じ、秋はどこにいったのでしょうか。寒さ厳しい中でも、本太中の生徒たちは、一日一日を自分のペースで大切に過ごしています。先日、本太公民館で開催された元町・本太地区文化祭に行った際、本太公民館の館長さんから、本校からボランティアとして参加した生徒についてお褒めの言葉をいただきました。思い返してみると、地域のお祭り、盆踊り、縁日、寄席、防災訓練、スタンプラリー、ドッチボール大会、フェスティバル等、私も多くの地域行事に行かせていただきましたが、どこにおいても、ボランティアとして参加している生徒が熱心に取り組んでいる姿を見るとともに、地域としてのまとまり、力強さを感じました。この地域の力を学校に、そして、学校が地域コミュニティの核となるようにと、改めてその思いを強くしています。

さて、現在、3年生の生徒全員と面談を行っており、その中で将来の夢について質問をしています。その質問に対して、具体的な職業を答える生徒もいれば、〇〇な人生というように答える生徒もいます。しかし、全員に共通していることは、一人ひとりが自分らしく生き生きと生きる、そのために、自分のことだけでなく他者のことも考えているということです。これは、主体的に行動する「I do」、そして、対立やジレンマを乗り越え集団で行動する「We do」の経験から身に付いたのだと思います。自分が生きたいように自由に生きるためには、他者の自由を認めるということについて、生徒は当然のように考えていることがわかります。自分が生きたいように生きる、そのための力を身に付けていることが、幸せな人生を送るために必要です。そのための力を生徒全員に付けていくために、学校、家庭、地域が、それぞれ役割を分担して取り組んでいくことが不可欠だと思います。

ところで、慶應義塾大学大学院 兼 武蔵野大学 前野 隆司 教授は、幸せには、①「やってみよう」、②「ありがとう」、③「なんとかなる」、④「あなたらしく」の4つの因子がある*と述べています。(調べたところでは、④「あなたらしく」は、「ありのままに」とも表現されています。)私自身に置き換えたとき、「やってみよう」と自分自身に言い聞かせることや、「ありがとう」と他者に感謝、思いをはせること、「なんとかなる」というある意味の楽観性はやや強いと思いますが、「あなたらしく」の因子が弱いような気がします。本校の生徒たちを見ていると、「やってみよう」、「ありがとう」は十分強い気がしますが、「なんとかなる」、「あなたらしく」がやや弱いような気がします。「なんとかなる」が弱いということは、慎重で思慮深い、「あなたらしく」が弱いということは、協調性、柔軟性があるとも解釈できますが、そのことで無理をしまい、苦しみ原因となることもあります。カリフォルニア大学とマックス・プランク研究所が調査した結果では、日本で平成19年(2007年)に生まれた子どもの寿命中位数は107歳と推測しています。変化の激しいこれからの社会では、ロールモデルはなくなり、人の生き方も今とは大きく異なるはずで、みんなちがってみんないい。幸せはコントロールできる。生徒には、この4つの因子を意識して、幸せな人生を送ってもらいたいと思います。子どもたちが幸せになるためにも、私たち大人が幸せな人生を実現する、幸せな社会を作りだしていく、そのための努力をする、そして、その姿を子どもたちに見せることが必要なのではないでしょうか。

皆さま、本年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしく願いいたします。

* 前野 隆司 「幸せのメカニズム 実践・幸福学入門」 2013年